

# JINDAI SPORTS

## 秋季リーグでリベンジ！ 目指すは日本一

4月8日（土）～5月28日（日）に開催された神奈川大学野球春季リーグ戦（以下、春季リーグ）では4位と悔いが残る結果となった。次の秋季リーグへのリベンジを胸に再スタートを切った。

柴垣大主将（経済・4年）は「序盤に先制点を取られると、試合運びが崩れてしまっ、調子を取り戻すことができなかった。課題が浮き彫りになった春季リーグだった」と大会を振り返る。ただ、今大会では三浦大選手（経済・4年）、庄司選手（人科・4年）選手の2選手が大会ベストナインに選出されるなど、選手たちの実力は存分に発揮できた収穫面もあったそうだ。

今後について「春季リーグの悔しさをバネに、秋季リーグに向けて勝てるチームを追求していく」と話す柴垣主将。同部は、夏に主力メンバーを中心とした10日間のキャンプを行い「戦術の改善」と「個々のスキル向上」に全力を注ぎ、更なる飛躍を図っていくという。



柴垣 大主将（経済・4年）  
出身校：川之江（愛媛）



硬式野球部  
HPはこちら

## 箱根駅伝 出場に向けて!!

第100回東京箱根間往復大学駅伝競走（以下、箱根駅伝）の本大会出場に向けて練習に励む陸上部駅伝チーム。今大会は節目となる第100回であり、10月14日（土）に開催される箱根駅伝予選会には全国の大学が参加可能となる。更なる熾烈な競争が繰り広げられる。

小林篤貴主将（人科・4年）は「僕たちはチーム一丸となって戦い、箱根駅伝本大会の舞台に立つ。予選会に向けて全員が自己ベストに挑戦していく」と意気込みを語った。

6月17日（土）に開催された2023全日本大学駅伝関東選考会（以下、全日本駅伝選考会）では、本戦出場枠7位以内には届かず、惜しくも9位の結果となったが「上級生は目標タイムをクリアでき、調整力の高さを見せてくれた。タイムが出なかった下級生を中心にチームの底上げしていきたい」と話してくれた。全日本駅伝選考会では、結果より「手応え」と「課題」が



小林 篤貴主将（人科・4年）  
出身校：四日市工業（三重）

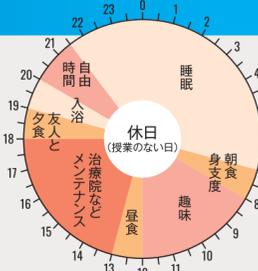


陸上競技部 駅伝チーム  
HPはこちら

### 陸上競技部 駅伝チーム

#### 小林主将のONとOFF

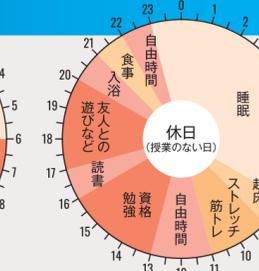
平日は早朝と夕方にハードな練習を行う小林主将。休日は「身体のメンテナンスを一番重視している」と話し、治療院などで調整を受けた後は寮内で過ごす時間が多く、怪我の予防と疲労回復を最優先に考えているようだ。伝統ある陸上競技部駅伝チームの主将として、相応しい意識が垣間見られた。



### 硬式野球部

#### 柴垣主将のONとOFF

「平日は練習漬けの日々」と話す柴垣主将。部活がない休日でも午前中はストレッチや筋トレを行い、自己管理を徹底している。読書が趣味だそうで毎日1時間は読書に費やしているそうだ。来春からは不動産業界への就職も決まり、宅建取得のため資格勉強に励むなど文武両道の姿があった。



# ONとOFFで何してる？

各団体に所属する神大生の「平日」と「休日」にクローズアップ!

## 2023 サマーコンサート 開催

6月17日（土）に横浜みなとみらいホールで開催された「2023サマーコンサート」を思の合った演奏で大盛況を収めた吹奏楽部。同部は、全日本吹奏楽コンクールで通算32回の金賞を受賞するなど、その優れた演奏力の高さが知られ、鑑賞者も心待ちにして、「また来たい」と思っていた。音楽愛好家や大学関係者、一般の観客など多くの人が会場に訪れた。

堀籠くるみ部長（自治行政・3年）は「練習で磨いてきた技術や成果が発揮できて嬉し、一つ一つの曲に心を込めて表現できた」と話してくれた。コンサートでは、「イイゴリ」より「観劇人の踊り」などを披露し、観劇者の織り込んだ表現豊かな演奏に、観客が一体となって拍手を送った。

今後について「8月に開催される神奈川県大会に照準を合わせて活動していく。今年



堀籠 くるみ 部長（自治行政・3年）  
出身校：藤村女子（東京）

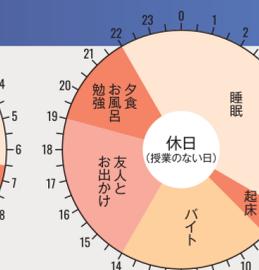


吹奏楽部  
HPはこちら

### 吹奏楽部

#### 堀籠部長のONとOFF

休日は、友人と「映画鑑賞」や「グルメ巡り」にハマっているという堀籠部長。色んなところに出掛けて、アクティブに過ごしているという。また、大学から始めたスーパーのバイトでは、従業員の方や仲良くなったお客様と談笑しているようで、みんなから可愛がられているそうだ。



## 今年の神大フェスタは 装飾にも注目!

神奈川大学横浜キャンパスで毎年開催されている「神大フェスタ」は、「学生主体」「地域密着」を理念に掲げ、今年で25回目を迎える。運営は「神大フェスタ実行委員会」が主体となり、「企画部」「広報部」「装飾部」「総務部」「財務部」の5つの部署が連携し、開催に向けて活動している。今回は、学内を彩る「装飾部」の大田萌美装飾部長（現代ビジネス・3年）に話を聞いた。

「今年、神大フェスタは「装飾」にも注目してほしい」と話す太田装飾部長。対面活動が盛んになってきた今年度は、装飾物の設置数を昨年よりも増やすことで、目玉の一つに神奈川大学の敷地を繋ぐ「神大橋」にもアーチを建設する予定とのことだ。「設置物を増やす中でも、来場される方々の手を高揚させるような装飾を手掛けた」とも話す太田装飾部長。今年も70名以上の新入生を迎え入れた同委員会の中には、昨年の神大フェスタのス



太田 萌美 装飾部長（現代ビジネス・3年）  
出身校：三島北（静岡）

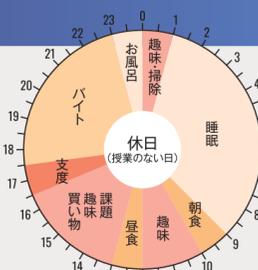
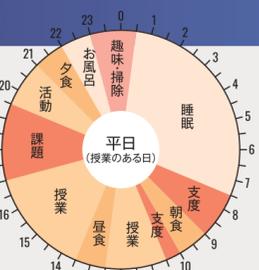


神大フェスタ  
HPはこちら

### 神大フェスタ実行委員会

#### 太田装飾部長のONとOFF

太田装飾部長は「テレビドラマ」が好きで、録画した番組を見るのが日々の楽しみで、リフレッシュにもなっているようだ。休日にはバイト先の隣りで出てくる「温玉のせ焼き鳥」が気に入りでエネルギーチャージにもなっているそうだ。



# 神大生レポート特集!!

神奈川大学の「横浜キャンパス」と「みなとみらいキャンパス」の学生記者がスポーツや文化を色々な切り口で取材!  
今回は「みなとみらいキャンパス」の三浦 知樹さん(国際経営・3年)、石川 悠さん(日本文化・2年)、  
桑島 暖さん(日本文化・2年)が取材しました。

## 各団体に聞いた!

## 暑い夏を乗り切る熱中症対策!

スタッフは、7月号ということでテーマを「部活ごとの熱中症対策」として横浜キャンパスとみなとみらいキャンパスの2つの部活動にインタビューしてきました。今号では、「フラメンコ部(ロスガトス)」と「体操部」の熱中症対策についてご紹介します!

### フラメンコ部(ロスガトス)の熱中症対策!

スペイン舞踊中心のフラメンコを楽しむことをモットーにしているロスガトスの方にお聞きしました!

**Q 1. 部内で気を付けている点はありますか?**

**A** こまめな水分補給を心がけています。

**Q 2. 部内での何か特別な対策はありますか?**

**A** 体調に合わせて無理なく練習をするようにしています。

**Q 3. 運動部でなくてもできる簡単な対策はありますか?**

**A** やっぱ水分、塩分補給をこまめに行うことです。

**Q 4. よくする対策は何かありますか?**

**A** 部活中は踊っているとすぐに熱くなってしまうので、スタジオのエアコンは温度設定をその都度変えています。



#### フラメンコ部(ロスガトス)

主な活動は、地域のお祭りから学生連盟主催の発表会などに参加しています。夏には合宿も行っており、現在は、8月7日(月)に館山(千葉県)で開催される「花火とフラメンコ」に向けて練習中です。  
活動場所: みなとみらいキャンパス 5Fスタジオ  
活動日: 月、金曜日 17:00~21:00

フラメンコ部(ロスガトス)HPはこちら



### 体操部の熱中症対策!

初心者からでも安心して技術が学べる体操部 部長の鳴海さんにお聞きしました!

**Q 1. 部内でしている熱中症対策はありますか?**

**A** 各自で水分補給をしています。一斉に水分補給をする時間を作ってしまうと途中で水分補給したい人がいても取ることが難しくなってしまうので、好きな時にできるように心掛けています。他にも、塩分タブレットなどを配って塩分を取ってもらうということもしています。

**Q 2. 運動部でなくてもできる熱中症対策は?**

**A** メジャーですが、濡れタオルがおすすめです。首や脇などを冷やすとスッキリするので、皆さんにもやっていただきたいです。タオルじゃなくても、ハンカチなどを濡らして使っていただけでも大丈夫です。

**Q 3. オススメグッズはありますか?**

**A** 先ほど言った塩分チャージもそうですが、経口補水液などもおすすめです。体操部でも部室に常備しています。



**Q 4. よく飲むドリンクは?**

**A** 糖分やカフェインは取らないようにしていて、ヨーグルトやいろはすといった味付きの水を飲むことが多いです。個人的に凍らせて飲むのが好きです。



#### 体操部

主な活動は、マット運動や跳馬、高鉄棒などを行っている。日々いろんな技に挑戦しています。楽しむことを大切に活動し、現在は秋の大会に向けて練習中です。  
活動場所: 横浜キャンパス 13号館  
活動日: 月曜日 19:00~21:00 火、木曜日 17:00~21:00

体操部HPはこちら



## 熱中症に注意しよう

協力: 神奈川大学保健管理センター

### 1 こまめに休憩を!

外でスポーツをする際は直射日光を避けた日陰で、冷たいタオルなどで体を冷やす。



### 3 水分補給!

のどの渇きを感じていなくても、水分補給は大切。スポーツ飲料水などの利用のほか、麦茶がおすすめです。



### 2 日々の健康管理をしっかりと!

食事や睡眠を十分にとり、体調に不安があるときは、運動量を調節し無理をしない。



### 4 体調が悪そうな人を見かけたとき

自力で水が飲めない、意識がない場合は、ためらわず救急車を呼びましょう!



### 「暑い夏を乗り切る熱中症対策!」取材協力 みなとみらいキャンパス記者

三浦さん、石川さん、桑島さんは神大スタイル編集スタッフとして活動しており、初めて神大スポーツにご協力いただいた。企画の立案から、取材対象者へのアポイントメント、記事制作まで、初めて経験することも多かったようで大変だったとのこと。特に、取材時に話を深掘することが難しかったようで、次回の課題にしたいそうだ。神大スポーツや神大スタイルの活動を通してそれぞれの目標を聞いて、三浦さんは「横浜キャンパスの方とも交流しながらコラボしたい」、石川さんは「コロナ禍の制限も緩和されたので、積極的に外に出た活

動をしたい」、桑島さんは「活動を通して記録に残るものを残していきたい」と話してくれた。今後の活動も非常に楽しみだ。



右から  
三浦 知樹さん(国際経営・2年) 出身校: 札幌新川(北海道)  
石川 悠さん(日本文化・2年) 出身校: 君津(千葉)  
桑島 暖さん(日本文化・2年) 出身校: 霧が丘(神奈川)

### 【神大スポーツ】掲載記事および取材学生の募集

神大スポーツで記事を取り上げ欲しい、私たちの課外活動を紹介したいなど個人・団体問わず募集しております。また神大スポーツでは、企画立案・取材・記事制作に興味のある取材学生を募集しております。ご希望の方は、右のQRコードからご応募ください。

※ご応募いただいた方から、ご協力いただきたい方はこちらから連絡を差し上げます。



### 指導者インタビュー

男子サッカー部 監督 大森 西三郎



今回の指導者インタビューは、男子サッカー部の大森西三郎監督に話を聞いた。

大森監督は、兄の影響を受けてサッカーを始め、高校時代には県大会優勝に導く輝かしい実績を持つ。有望選手として中央大学に進学しプレーを続けるも、大学時代は身が出なかつたと振り返る。当時の大森監督は「自己管理が甘く、真剣に部活と向き合えなかつた」とサッカーへの情熱を注ぐことができず、苦悩した日々を語った。そんな中、大森監督の競技に対する姿勢を変えたのは、大学卒業後に就職した海上自衛隊での経験が転機になったという。

海上自衛隊に入隊後は、任務と並行しながら海上自衛隊内の社会人チームに所属した大森監督。国を守るという重要な任務には、多岐に渡る役割を果たす隊員によって成り立つことを目の当たりにし、これはサッカーにおいても必要なことであると気付いた。「サッカーは、個人の力、だけではなく、個々の役割と長所を全うする」ことが必要だった」と強く感じた大森監督は、自身の立場を見つめ直し、「チームに貢献できる選手」として競技に向かい合った結果、1998年には国民体育大会サッカー競技の神奈川県代表として選出され全国優勝に貢献した。



34歳で現役引退した大森監督は、これまでサッカー経験を通して「学んだことを活かせる場を探していたところ、友人を介して神奈川大学より監督就任の打診があり、2004〜2010年まで監督を務めた。一度は監督を退き、2019年に再び監督に復帰するも、それまでの間に、プロサッカークラブ「湘南ベルマーレ」で地域スポーツ振興に携わり、地域とスポーツが持つコミュニティの在り方を模索した。大森監督が「一番印象に残っている活動として、東日本大震災で被害を受けたことも連にサッカーの機会を提供しようと、企業と地域の方が連携して約100名超の子ども達を湘南に迎え入れたことを挙げた。スポーツの枠を超えて人々を繋ぐ力に感銘を受けたという。

現在は、これまでの経験を通して学生達にも、スポーツだけでなく社会人として人間性を高めたい」との想いから、横浜市緑区にある竹山団地での地域課題の解決に取り組む「竹山団地プロジェクト」を実施。同部選手が全寮制で生活している団地で、高齢者向けの「スマホ教室」や「小学生の学習支援」などを行うことで、新たな地域コミュニティの形を創造している。これら活動は評価され、地方新聞46紙と共同通信社が表紙で第13回地域再生大賞(創る)新時代希望掲げている。最後に「社会性を育てながらサッカーでも人間力でも輝いて欲しい」と想いを語り、この地域活動が選手たちの人生の礎になつてくれたら嬉しいと話してくれた。

# おもてなしの「服をどうぞ」

い草の香りが立ち込める部室で、日本の伝統文化とおもてなしの心を学ぶため、日々の稽古に励む茶道研究部。

「茶道研究部は年間通してお茶会の場があり、季節の行事毎に合わせた活動をしている」と話してくれた。6月18日(日)には三溪園で清水茶会を開催し、風情のある庭園の中にお客様をお招きし、心豊かなひとときとなったそうだ。他にも、神奈川大学の「日本語・日本文化プログラム」の一環として外国人留学生に、茶道の知識や作法を伝える体験会を実施。「留学生は日本の「お抹茶」に興味を持っていく方が多く、とても好評だった。茶道を通して交流の機会があるのは嬉しい」と語ってくれた。

茶道の魅力として「茶道のお点前や作法には種類が多く、学ばば学ぶほど奥が深い。完璧な形がないからこそ、お客様と創り出す一席を大事



杉山 あおい 副部長(建築・2年)  
出身校: 田園調布学園高等学校(東京)

## 茶道研究部

茶道研究部HPはこちら



### われらの勝負飯

にして「おもてなし」をしている。お客様には、五感全てで楽しんで頂きたい」と話してくれた。最後に「茶道を通して、人との繋がりをや伝統文化を知ることが出来た。これからは多くの人を繋ぐ架け橋となるような活動していきたい」と想いを語ってくれた。和の心を大切にしたい茶道に向き合う茶道研究部。多くの人を魅了する「おもてなし」をこれからも期待したい。

茶道研究部の勝負飯は「和菓子」を挙げてくれた杉山副部長。見た目の美しさや自然の恵みを活かした素材を感じながら味わっているという。お気に入りの和菓子屋さんもあるそうで、作り手の方と会話を楽しみながら、お茶会で提供する和菓子を選んでいるそうだ。



# 3部昇格に向けて!!

関東大学ラグビーリーグ4部に所属するラグビー部。今季は3部昇格を目標にチーム一丸となり取り組んでいる。

チームを率いる平野真竹主将(国際経営・4年)は「メンバーは20人程度と他大学に比べて人数は少ないが、少数精鋭を武器に団結力で昇格を掴みたい」と力強く語った。平野主将は学生コーチの役割も務め、「練習メニューや試合戦術の練り込みもやっているから、チームは学生主体で活動している。チームの選手たちが自主性を持って練習に励み、自らの強みを見出してプレーで表現しているのだ。」

今後の展望について「今季は『繋ぐラグビー』で勝利を目指したい」と話し、キックやランを駆使したプレーでエリアを最大限に広げ、トライに向けて『繋ぎ』を意識した前進するプレースタイルを追求していくと語った。



平野 真竹 主将(国際経営・4年)  
出身校: 関東学院六浦(神奈川)

## ラグビー部

ラグビー部HPはこちら



### われらの勝負飯

最後に「応援されるチームになる為プレー以外の活動にも力を入れたい」と話す平野主将。今年からの新たな取り組みとして、Tシャツやタオルなど応援グッズの制作やチームの発信力を高める為にホームページのリニューアルをしておき、広報にも力を入れているという。学校関係者やOBの方々のサポートがあり、グラウンドに立てることに感謝したいと思いを込めるラグビー部。彼らの迫力満点のプレーをこれからも期待したい。

ラグビー部の勝負飯は「中華街での食べ放題」と話す平野主将。大会前の決起会として横浜中華街に訪れ「食べ放題を注文」することが恒例になっている。独自のルールもあり、店内の「全てのメニュー」をみんなで完食することだそう。ラグビー部にとっては食事もトレーニングの一環なのだろう。



# 教えて勝負飯!

# 各団体の「ここぞ!」という時の「勝負飯」をご紹介!

# 春季関東インカレベスト8入り!!

4月28日(金)〜5月8日(月)に開催された2023年度関東学生ヨット春季選手権大会(以下、春季関東インカレ)にて団体戦でベスト8の成績を収めたヨット部。

石川立琉主将(人科・4年)は「目標であった8位以内に入れたことで、10月に開催される秋季関東インカレのシード権を獲得できた」と話してくれた。試合に向けて重点的に強化してきたポイントとして「マーク回りを挙げてくれた。コース上に設置されたマークを巧みに回りながらゴールを目指すマーク回りは、競技力と戦略が詰まったヨットレースの醍醐味であり、練習の成果を存分に発揮できた」と手応えを語ってくれた。

今後の活動について「春季関東インカレは良いスタートを切ることが出来た。これから控える夏合宿で力を付けて、秋季関東インカレでは更なる高順位を目指したい」と意気込みを話してくれた。



石川 立琉 主将(人科・4年)  
出身校: 横浜質理総合(神奈川)

## ヨット部

ヨット部HPはこちら



### われらの勝負飯

最後に「今年度は新たに1年生5名が入部し、フレッシュな雰囲気が出てきている。全員が前向きに活動できている。この勢いでチーム全体の底上げを図ってほしい」と士気が高まっている様子を見せてくれた。今年度の目標に全日本インカレ15位を掲げるヨット部。初戦で素晴らしいスタートを切ってくれた彼らの今後の活躍にますます期待が膨らむ。

ヨット部の勝負飯は「二郎系ラーメン」と話す石川主将。学年の隔てなく仲の良いメンバー達で練習帰りに訪れるそうだ。チーム内は細身の選手が多いが、迫力満点に盛られた大盛りラーメンをベロリと平らげる姿に、周りの方からも驚かれることもあるとエピソードを教えてくださいました。



# 公式戦出場に向けて!!

熱気溢れるボクシング場に、選手たちの力強い拳の音が響くボクシング部。7月に開催される神奈川県一般ボクシングオープン戦(以下、リーグ戦)出場に一心不乱に努力を重ねている。

西川基主務(経済・3年)は「実戦形式のスパarringを中心に練習に取り組んでいる。常に試合に臨めるコンディションを整えるため、日々の練習に励んでいる」と話してくれた。練習ではプロボクサーが招かれ、直接的な指導を受けることで高度な技術を学んでいるという。

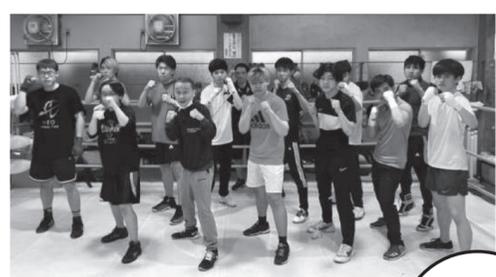
今年度は、4名の1年生部員が新たに加入した同部。西川主務は「武道の経験者やボクシングセンスのあるメンバーが多く入ってくれた」と話してくれた。これまで人数不足で果たせなかったリーグ戦にも出場の意向を示してくれた姿に、今年度の熱意が感じられた。



西川 基 主務(経済・3年)  
出身校: 朋優学院(東京)

## ボクシング部

ボクシング部HPはこちら



### われらの勝負飯

最後に「ボクシングは強靭な精神力を培えるスポーツ。ロードワークや過酷な練習に耐え抜くことで、リングに上がった際に相手と向かい合う勇気が湧く。結果を残すためにも日々の自分に打ち勝たないと力強く語ってくれた。ボクシングへの情熱が溢れる西川主務が率いるボクシング部。鍛え抜かれた選手たちが、悲願であるリーグ戦での勝利を得ることを期待したい。

ボクシング部の勝負飯は「ささみ+卵」のタンパク質が豊富な食事と話す西川主務。試合前は過酷な減量の中で食事を摂れる瞬間は至福の時間だという。通学中にファーストフードのお店が見える時も、食べたい気持ちを我慢して「ボクサー」としてストイックに過ごしているそうだ。



## 縁の下の力持ち

# マネージャー取材日記

今回のマネージャー取材日記は、戦略的なプレーと迫力あるタックルで、観客を熱狂させるアメリカンフットボール部だ。マネージャーの佐々木陽菜さん(現代ビジネス・4年)は、中学・高校で吹奏楽部に打ち込んでいたが、大学生活では新たなことに挑戦しようと決意を抱いていた。そんな中出会ったのがアメリカンフットボール部だったそうだ。同部に入部を決めた理由は、「オン・オフ」のメリハリがしっかりしていて、チームの雰囲気も良く、馴染みやそのような印象を受けたのがきっかけだったという。

マネージャーの主な仕事は、水の補充、タイムキーパー、練習・試合のビデオ撮影、監督やコーチとのやりとり、合宿の計画を

立てるなど幅広い活動を行う。また、佐々木さんはスタッフ募集の新たな試みとして、学業との両立がしやすい週3日の活動や在宅スタッフを起用したところ、例年より多くのスタッフが入部し、リクルート面でもチームに貢献しているとのこと。今年度の目標について聞いてみると「選手の力を最大限に引き出すためのサポートを行い、1部リーグへの返り咲きを後押ししたい」と話してくれた。最後に「マネージャーは、チームを支える重要な存在。少しでも興味があったらぜひ入部してほしい」と話してくれた。マネージャーの信頼とサポートによって、選手たちが力を発揮し、1部昇格を成し遂げてくれる姿に期待したい。



佐々木 陽菜さん(現代ビジネス・4年)  
出身校: 能代(秋田)

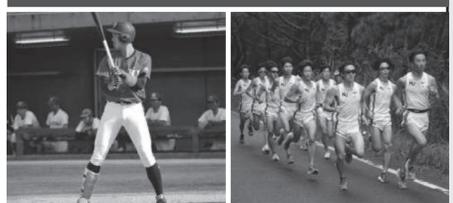
# 課外活動団体へのご支援を

お考えの皆様へ

## 神大スポーツ・文化振興賛助金募金



左のQRコードからアクセス





松村 風花 主将(中国語・3年)

## チアリーディング部

チアリーディング部HPはこちら



主に重点強化部の試合に駆け付け、笑顔とパフォーマンスで選手の力を後押しするチアリーディング部。今年度は、コロナ禍の活動制限が緩和され、声出し応援が可能となり活動に更に力を入れている。

松村風花主将(中国語・3年)は「対面での活動が全面的に再開して、コミュニケーションが非常に取りやすくなった。チーム全員で音楽に合わせて練習もできるため、一体感も増している」と話す。また、今年度は新入生が10名加入し、チームに新たな風を吹き込んでいるという。「元気で明るいメンバーが多く、チームに活気が出ている。経験者はより高度な練習を、未経験者にはマンツーマンで指導ができるため、一人ひとりの成長に合わせてサポートができる」とも話してくれた。練習風景を覗くとハードな練習の中でも、メンバー同士が笑顔でコミュニケーションをとっている姿が印象的だった。



観客も巻き込まれるような練習をするため、練習風景を覗くとハードな練習の中でも、メンバー同士が笑顔でコミュニケーションをとっている姿が印象的だった。

観客も巻き込まれるような練習をするため、練習風景を覗くとハードな練習の中でも、メンバー同士が笑顔でコミュニケーションをとっている姿が印象的だった。



足達 綾美 団長(経済・3年)  
出身校: 金沢(神奈川)

## 管弦楽団

管弦楽団HPはこちら



定期演奏会をメインの活動としながら、課外活動の一環で箱根駅伝や硬式野球部の応援にも駆けつけ、チアリーディング部と共に応援を盛り上げている管弦楽団。

6月17日(土)に相模女子大学グリーンホール大ホールで開催された第81回定期演奏会も成功を収め、足達綾美団長(人科・3年)は「本番で一番良い演奏が出来た。指揮者の先生にも褒めの言葉をいただいた」と振り返る。アンコールでは、会場から拍手も聞こえ、お客様と一体感ある定期演奏会になった。

今年度は27名の新入生を迎えたそう。「例年よりも人数が多くなり、活気が溢れている。練習でも各パートリーダーが率先して指導してくれるので、安心して活動ができる」と話す。新入生は、先の定期演奏会で緊張の面持ちだったそうだが、日頃の練習の成果を発揮できたに違いない。



定期演奏会をメインの活動としながら、課外活動の一環で箱根駅伝や硬式野球部の応援にも駆けつけ、チアリーディング部と共に応援を盛り上げている管弦楽団。

定期演奏会をメインの活動としながら、課外活動の一環で箱根駅伝や硬式野球部の応援にも駆けつけ、チアリーディング部と共に応援を盛り上げている管弦楽団。

# 神大の「集中応援」を体感しよう!

2023年4月22日、約3年ぶりとなる「集中応援」企画が実施され、石渡理事長、小熊学長をはじめ250名を超える在学生・教職員・卒業生が横浜スタジアムに集まり、神奈川大学野球春季1部リーグ(VS横浜商科大学)を戦う硬式野球部に大きな声援を送った。

「集中応援」とは、課外活動団体が試合を行う会場(現地)に在学生・教職員が集まり、チアリーディング部や管弦楽団らと一体感を持って「応援する喜び」を体感する神大ならではの特別な企画だ。過去には、明治神宮大会に出場する硬式野球部、箱根駅伝に出場する陸上競技部駅伝チーム、関東学生リーグを戦うサッカー部など、さまざまな課外活動団体の「集中応援」企画が実施されてきた。

この3年、新型コロナウイルス感染症対策のため自主規制を強いられていたが、2023年度からは本格的に「集中応援」を再開。本学アスレティックスポーツ戦略室では、前述した硬式野球部の応援を皮切りにして、今後も随時企画を検討しており、次は10月の箱根駅伝予選会での実施が決定している。

神大アスリートが誰に応援されるか、最も力が発揮できるのか?—それは、同じ神大生に応援されることに他ならない。あなたもTEAM JINDAIの一員として、ぜひ「集中応援」に参加してほしい。一人でも多くの声が、選手を後押しする力となるように。



## 箱根駅伝予選会を現地で応援!!

今年度の箱根駅伝は記念の節目となる第100回大会。本大会出場の切符を勝ち取るために、陸上競技部駅伝チームを応援しに行こう!



最新情報は  
こちらから

# 神大フェスタ×みなとみらい祭



神奈川大学では、それぞれのキャンパスで大学祭を開催しており、横浜キャンパスで25回を迎える「神大フェスタ」とみなとみらいキャンパスで3回を迎える「みなとみらい祭」の2つがある。神大フェスタは歴史も長く、住宅地の中にキャンパスがあることから地元の方々に密着した大学祭であり、課外活動として六角橋へのボランティア活動も行っている。一方、みなとみらい祭は、みなとみらいの中心という地の利を活かした近隣企業との

連携や国際系の学部が集中していることからグローバルな大学祭となっている。今年は、行動制限もなく、両大学祭は例年以上の企画・展示を模索しているとのこと。そんな大学祭の魅力に迫るべく、神大フェスタ実行委員会の加藤優剛委員長(現代ビジネス・3年)とみなとみらい祭実行委員会の三宅涼太委員長(国際経営・3年)の両名にそれぞれインタビューをした。

神大フェスタHPはこちら

みなとみらい祭HPはこちら



神大フェスタ実行委員会  
委員長: 加藤 優剛(経済・3年)  
出身校: 鹿屋(鹿児島)

毎年11月上旬頃に横浜キャンパスで行われている大学祭であり、作品展示、演奏発表、模擬店、お化け屋敷など様々な企画が催されている。「学生主体」「地域密着」の理念の基に、例年約1万人以上が来場される大学祭。



みなとみらい祭実行委員会  
委員長: 三宅 涼太(国際経営・3年)  
出身校: 横浜市立東(神奈川)

毎年11月上旬頃にみなとみらいキャンパスで行われている大学祭であり、「来場してくれたすべての方に楽しんでもらいたい」をモットーに掲げ活動。近隣企業との連携も多いグローバルな大学祭。

神大フェスタ  
2023.11.4(土)-5(日)

## 委員長に聞いてみた! 一問一答!

みなとみらい祭  
2023.10.28(土)-29(日)

3年ぶりの対面開催もあり、経験者が少なく手探りで運営であった。ただ、長い歴史に恥の無いような開催は出来た。

Q. 昨年のイベントを振り返ってみて

みなとみらい祭として初めての対面開催もあり、想定していない問題や関係各所への調整が大変だった。ただ、歴史を作る良い機会となった。

例年よりも多い76名の委員を迎えることができた。チャレンジ精神の多い新入生が多く、更に活気のある委員会になっている。

Q. 新入委員について

120名の委員を迎えることができ、更に大所帯になった。全員が同じモチベーションをもって活動してもらうため、積極的に交流を行っている。

雰囲気は良く、考えて動く委員が多い。昨年度は無事に開催することが目標だったが、今年度はより良いものにするために、みんなのモチベーションが高い。

Q. 委員会全体の雰囲気

自発的に動ける委員が多い。自分たちが楽しいと思わないと、来場される方も楽しめないという気持ちで活動してくれている。

委員のみんなが「やりたい」と思っていることを優先できるように心がけている。伝統も大事だが、とらわれすぎずに来場者が楽しめるようなイベントにしたい。

Q. 委員長として大事にしていること

委員に物事を伝える為にも、人一倍、理解と努力をしないとけない。また大学や横浜市との打ち合わせも多いので、責任をもって活動している。

「Awesome! ~ココロウゴカセ~」アメリカンポップを意識したロゴで、コロナ禍で沈んだ気持ちを動かすために、非日常でワクワクしてもらえるイベントにしたいと考えている。特に神大生に来てもらい、大学の楽しさを知ってもらいたい。

Q. 今年度のテーマは?

「An Core(-アンコール-) ~夢のもう一幕~」「もう一度」の「Encore(アンコール)」、「海のシンボル」の「Anchor(錨)」、「みなとみらいの中心」の「Core(核)」を掛け合わせたテーマとなっている。みなとみらい祭を、普段の大学とは異なる夢の空間にしたい。

例年の企画に加え新規企画も検討している。まだ詳細は決まっていないが、テーマにあった盛り上がる企画にしたい。

Q. 今年度の企画

学内のバスケットボール場にステージを組みたい。構造上で設置まで課題は山積みだが必ず実現させたい。

キャンパスが東西に広く分かれているが、道路を挟んだ西側エリアへの誘導が課題になっている。回遊性を上げるために、神大橋にアーチを制作するの注目してほしい。

Q. 注目ポイント

縦に長いキャンパスであるため、来場者が途中の階で帰ってしまわないように視認性の高い装飾を心掛けたい。また、普段見ることができない4階以上もぜひ見てほしい。

人に伝える力や表現力が養われると思う。また他の団体と比べて人数も多いので、統率する力も学べると思う。

Q. 実行委員になって得られるもの

委員同士の繋がりはもちろんのこと、大学や近隣企業の方など多くの人と繋がり学ぶことができると思う。

「学生主体」「地域密着」の理念を念頭に、昨年度を超える規模の神大フェスタにしたい。様々な企画を考えているので、神大生や地域の方々に沢山お越しただけると嬉しい。

Q. メッセージ

3年目と歴史は浅いが、年代や性別を限定しない「あなたに楽しんでいただける」みなとみらい祭にしたい。是非見に来てほしい。